


平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-1	中原区子育て支援推進事業	継続	平成15年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会		対象者	区内在住の0歳から3歳までの乳幼児と保護者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局・事業内容			
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者が、周囲から孤立して育児不安に陥ったり虐待につながることはないよう、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社協、民協の地域住民が主体となり、区内7地区で14ヶ所の「子育てサロン」を開催している。				
予算額	2,000,000(円)	決算額	1,977,479(円)	不用額	22,521(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		中原区の社協・民協が主体となって区内7地区・14ヶ所で毎月1回子育てサロンを開催している。 子育てサロンの開催の他、各地区での見守り活動や中学生などの子育てを支援する人材の育成等も行っている。 子育てサロン5周年記念誌「子育てはみんなの“ちから”で！」を発刊し、5周年の活動のまとめをおこない、今後の活動の方向性などを示したものとなった。		
	5周年記念誌		実施時期 (開催日/回数等)	月1回/サロン 延べ151回	参加 人数等 11,768人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
転入者の多い中原区では、乳幼児を持つ親が周囲に知り合いがいないため不安を抱えていることが多く、子育て中の親同士や地域の人々と交流ができる「子育てサロン」に対するニーズはたいへん高い。「子育てサロン」に参加することにより、子育てに関する情報交換ができ、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりができることにより、孤立化による育児に対する不安が軽減されている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	7地区で行っている子育てサロンは定着しており、利用者数も増加を続けている。 地域のサロンに対するニーズは高いものであり、社協・民協以外にボランティアを中心に始まった子育てサロンへの支援も制度化する。

区民会議からの主な意見


・活動がますます広がるようにして欲しい。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-2	こころ育ての子育て支援推進事業	継続	平成14年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こころ育ての子育て支援推進実行委員会	対象者	妊婦及び乳幼児とその親		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	子育て期における「赤ちゃんを抱っこすることの大切さ」を広く伝え、子どもの健全な発育を支援するための講演会を行う。また、妊婦や日頃生の音楽にふれる機会の少ない乳幼児を持つ親が、子どもと一緒に美しい音楽にふれ、気持ちを豊かにして育児にのぞめるよう「マタニティー&ファミリーコンサート」を行う。				
予算額	900,000(円)	決算額	884,374円)	不用額	15,626(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 	平成19年7月2日、12月17日にエポックなかはらにおいて「マタニティー&ファミリーコンサート」を開催した。また、9月22日に子ども未来フェスタのイベントの一環として、中原市民館において、池川明氏を招き、講演会「赤ちゃんからのメッセージ」を開催した。			
	マタニティー&ファミリーコンサート	実施時期 (開催日/回数等)	年2回(マタニティー&ファミリーコンサート)、年1回(講演会)	参加人数等	マタニティーコンサート 第1回約770人 第2回約900人 講演会約150人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>コンサートは2回合わせて約1500人の参加があり、本事業の目的である「赤ちゃんを抱っこすることの大切さ」を広く区民に普及啓発する機会となった。</p> <p>講演会は、参加者アンケートで、「目と目を合わせた真心の子育てをしていきたいと思う。」「とても良いお話でした。子どもとの向き合い方を見直したいと思います。」等の感想が寄せられ、親子関係を見直す機会の提供となり、より良い親子関係を形成する一助となったといえる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成17年度から講演会とコンサートを同時開催で実施し、集客効果を挙げてきたところではあるが、参加者からは「夫に聞かせたかった。」との要望もあり、父親や就労している母親が参加できるような開催日時等の設定を考える必要がある。又、20年度からは本事業は子育てネットワーク(なかはら子ネット)の活動として位置づけることになった。

区民会議からの主な意見


・是非、父親や就労する母親も参加できるように検討して欲しい。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-3	子育て・子ども支援ネットワーク推進事業	継続	平成18年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	子育てネットワーク、子ども支援ネットワーク	対象者	区内の子どもと保護者、区内の子どもに関わる機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業				
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容							
目的及び内容	<p>地域全体で子どもが抱えている課題を共有し、課題解決に向けた支援を行うため、就学前の子育てネットワーク、就学児以上の子ども支援ネットワークをそれぞれ年4回開催した。その中で、各関係機関・団体等の情報交換を繰り返し行うことで、お互いの活動の特徴、役割などの理解を深め、子育て支援の連携強化を図った。お互いが知りえた情報をタイムリーに発信し、区民に対してきめ細かい情報提供を行う。</p> <p>区内の子どもを支援する団体や子育てに関わる団体・区民同士が交流し、広く子どもや子育てに対する情報提供や啓発を行うイベントとして「なかはら子ども未来フェスタ」を開催する。</p>								
予算額	703,000(円) (変更契約後 1,261,600円)	決算額	1,235,895(円)	不用額	18,360(円)				
不用の理由									
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>子ネット通信・子ども情報なかはら</p>	<p>子ども支援・子育てネットワークについては、それぞれ年6回、4回の会議を実施し、情報交換や子ども支援に向けての検討を行った。</p> <p>その中で、地域に密着した行事等の情報をこまめに提供するための「子ネット通信」を隔月発行と、就学児以上の「子ども情報なかはら」を発行した。</p> <p>子育てネットワーク参加団体 23 団体 「子ネット通信」の発行 年6回発行(編集会議12回) 子ども支援ネットワーク 参加団体 27 団体 「子ども情報なかはら」の発行</p> <table border="1"> <tr> <td>実施時期 (開催日/回数等)</td> <td></td> <td>参加 人数等</td> <td></td> </tr> </table>				実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等	
実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等							

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>これまで、地域毎に活動していた自主グループ等と行政機関、公共的活動を行う団体がネットワークとして集まり、皆で地域の子どもを支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体の活動状況の情報交流を行い、連携が深められた。また、「子ども未来フェスタ」を開催することでネットワーク参加者同士の交流をはかり、地域に向けて活動内容をPRすることができ、今後のネットワーク活動をしていく上で一定の事業目的を達成することができた。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>地域全体で子ども支援に取り組むため、さらに多くの関係機関や団体に参加を呼びかける必要がある。また、ネットワークの中で参加団体の特性を生かした支援を検討する。未来フェスタについても広く参加を呼びかけるとともに、区民に対してのPRをさまざまな手段で行っていく必要がある。</p>

区民会議からの主な意見


<p>・参加者の増加を踏まえ、是非継続して欲しい。</p>

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-4	子育て情報発信事業	新規	18年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こども支援室		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	子育て・子ども支援のホームページの充実を図ることにより、子育て・子ども支援に関する情報を広く分かりやすく提供する。					
予算額	252,000(円)	決算額	0(円)	不用額	252,000(円)	
不用の理由	今年度は軽易な更新のみとし、作業を所管課で行ったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		子育てカレンダーなど、最新の情報がゆきとどくよう更新した。又、子ども支援ネットワークで作成した「こども情報なかはら」の内容もホームページにのせた。			
	 (子ども情報ホームページ)		実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
平成18年度新設した子育て情報ホームページの更新作業を業者委託することなく所管課で行ったため、予算が不要となった。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成19年度は子育てホームページの軽易な更新のみとしたので所管課で行ったが、20年度からは学校・地域連携担当がこども支援室へ組織され、学齢期の子どもとその保護者に向けたホームページ等、情報発信事業をさらに拡充していく。

区民会議からの主な意見


・積極的な情報の発信は良いことだと思う。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 5	なかはら子ども未来フェスタ開催事業	継続	平成18年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	なかはら子ども未来フェスタ実行委員会	対象者	区内の子どもと保護者、区内の子どもに関わる機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	区内の子どもを支援する団体や子育てに関わる団体・区民同士が交流し、広く子どもや子育てに対する情報提供や啓発を行うイベントとして「なかはら子ども未来フェスタ」を開催する。				
予算額	450,000(円)	決算額	390,631(円)	不用額	59,369(円)
不用の理由	メインとなる講演会を中原区子育て支援推進実行委員会5周年事業と共催し、講師料を中原区子育て支援推進実行委員会から支出したため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		実行委員会を8回開催し、実行委員、参加ボランティア144名で開催をし、1,500名の来場者との交流を行った。		
	フェスタの様子		実施時期 (開催日/回数等)	H19.9.22	参加 人数等 1,500人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
子育てネットワーク、こども支援ネットワークが実行委員会の中心的メンバーとなり、「子ども未来フェスタ」を開催することでネットワーク参加者同士の交流がはかれると同時に、地域に向けて活動内容をPRすることができた。今後のネットワーク活動を推進していく上で一定の事業目的を達成することができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	地域全体で子ども支援に取り組むため、さらに多くの関係機関や団体に参加を呼びかける必要がある。また、ネットワークの中で参加団体の特性を生かした支援を検討する。子ども未来フェスタについても広く参加を呼びかけるとともに、区民に対してのPRをさまざまな手段で行っていく必要がある。

区民会議からの主な意見


・子ども関係の事業が多くあるのは良いと思うが、事業の統廃合も検討する必要があると思う。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-6	こども情報コーナー設置事業	新規	19年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こども支援室		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	庁内の別館、1階、2階にあるこどもに関する情報を、こども情報コーナーとして集約することで、行政の情報や、関係団体の情報を一元化し利用者の利便性をはかる。					
予算額	661,000(円)	決算額	580,335(円)	不用額	80,665(円)	
不用の理由	閲覧コーナーの整備を予定していたが、環境が整わず今年度は見送ったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		区役所2階の授乳室前のスペースに「こども情報コーナー」を設置した。			
	(こども情報コーナー展示の様子)		実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
様々なところに、種々雑多に置かれたパンフレット、チラシを1箇所におくことで区民に分かりやすくなった。しかし、区民が更に利用しやすいよう、取り扱う情報の内容や量、分類の方法などに改善をしていく必要がある。また、利用者がゆっくりと閲覧内容を確認できるような空間づくりも必要である。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	今年度は、情報を1箇所にする事で、利便性の改善をはかった。 しかし、子どもを連れての利用を考えた時に、安心してゆっくり情報収集できる環境づくりは、今後必要な整備と思われる。

区民会議からの主な意見


・コーナーの設置だけでは高いと思う。有効活用が図られるよう、周知の方法等検討して欲しい。
--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-7	ふれあいなかはら福祉まつり	継続	平成11年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	ふれあいなかはら福祉まつり実行委員会	対象者	中原区民（限定なし）		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他（ ）	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	誰もが生き生きと暮らせる地域福祉社会を目指し、区民参加型イベントを実施し、各種福祉活動の展示・発表や参加型イベントを通じ、福祉に関して広く区民への理解を深める機会を創出する。あわせて参加団体間の交流を図ることで、連携した福祉活動の推進への一助とする。 内容としては、福祉団体の活動発表や出店、各種展示、福祉に関する来場者参加型イベントを実施する。				
予算額	850,000(円)	決算額	850,000(円)	不用額	(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 	福祉団体活動発表、福祉用具・車両の展示に加えて、「高齢者・障害者疑似体験」、「ミニ手話教室」、「福祉健康体験ウォークラリー」等の来場者参加型イベントを実施した。また参加団体間限定の「大名刺交換大会」を実施し、団体間の交流を深めることができた。 ウォークラリーでは共同開催の「なかはら健康まつり」もあわせたコース設定としたので、参加者の回遊性を高めることが出来た。			
	イベント会場(区役所正面玄関)の様子	実施時期 (開催日/回数等)	平成19年11月 17日	参加 人数等	約3,000人

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>今回は「なかはら健康まつり」と共同開催し、名称も「なかはら福祉健康まつり」として開催した。これにより、来場者が「福祉」、「健康」それぞれのイベントを回遊し、それぞれの理解を深めるよい機会となった。またウォークラリーの共同実施により、その相乗効果を生む結果となった。目的とした区民の福祉への理解を深めることについて、一定の成果があげられた。</p> <p>また「大名刺交換大会」を実施したことで、健康・福祉の各参加団体間の交流を深めることが出来た。地域における福祉活動の担い手の掘り起こしに、健康団体との交流、区民へのPR活動は必要不可欠であり、本事業は今後も必要性・重要性の高い事業である。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	「なかはら健康まつり」と共同開催したことにより、福祉と健康の各団体が交流を図り、地域福祉のネットワークの拡大につながった。平成20年度からは両事業を一本化して、参加者の拡大やイベントの充実を図っていく。

区民会議からの主な意見


・年々規模が大きくなりよいと思う。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 8	なかはら健康まつり	継続	平成18年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	なかはら健康まつり実行委員会		対象者	中原区民及び健康に関心のある人		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	なし			
目的及び内容	区民参加型の健康づくりイベントを通し、区民の健康に対する知識の高揚を図ることを目的とする。実施内容としては各種健康相談、栄養相談、歯科相談、禁煙相談、足指力測定、健康体操等。					
予算額	350,000(円)	決算額	349,833(円)	不用額	167(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		食生活改善推進員による展示、試食コーナーや運動普及推進員による体操(右写真)、展示、医師・歯科医師・保健師・栄養士等による各種健康相談、健康測定を実施。 各イベントをウォークラリー(景品付)でつないだ。 また、老後の生活について講演会を実施した。			
	運動普及推進員による体操の様子		実施時期 (開催日/回数等)	平成19年11月	参加 人数等	約3,000人 (福祉まつり含む)

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>数年前から実施していた「なかはら健康まつり」を平成18年から区協働推進事業として規模を拡大。 平成19年は同時開催していた「ふれあいなかはら福祉まつり」(以下福祉まつり)と共同開催し、名称も「なかはら福祉健康まつり」となった。 参加者数は年々増え続けており、社会での健康意識の高まりの中で、イベントを通じた健康教育、健康相談として一定の成果をあげるとともに、区内の健康づくり関係団体の活動の発表の場として大きな役割を果たしている。国で展開している「食育」や、特定健診の中で重要性を増している「保健指導」をはじめとして、今後も健康づくり普及・啓発の場として本事業は有効性、重要性の高い事業である。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	「福祉まつり」と共同開催したことにより福祉と健康の各団体が交流を図り、地域福祉のネットワークの拡大にもつながった。平成20年度以降両事業一本化して、参加者の拡大やイベントの一層の充実を図っていく。

区民会議からの主な意見


<p>・年々規模が大きくなり、良いと思う。</p>

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 9	地域福祉講座事業	継続	平成18年度	地域福祉課

1 事業概要

事業実施主体	中原区地域福祉推進実行委員会	対象者	中原区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	なし	
目的及び内容	<p>「中原区地域福祉計画」推進の一環として、身近な地域の「場の確保」と「人を育てる」ことを目指して区内各地区で講座を開き、地域の福祉活動に結びつくよう支援していく。</p> <p>5地区の社会福祉協議会の代表委員からなる中原区地域福祉推進実行委員会に業務を委託し、地区社協単位で福祉ボランティアの養成や福祉施設の見学等の事業を実施する。</p>			
予算額	380,000(円)	決算額	188,125(円)	不用額 191,875(円)
不用の理由	5地区社協のうち3地区で事業を実施したが、残る2地区社協では実施に至らなかったため。			
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(小杉地区社協ワークショップの様子)</p>	<p>小杉地区社協では「小杉地区の将来のビジョン展望」をテーマにワークショップ(9月)、「福祉の心を学び合おう」をテーマに総合福祉センター及び中部身体障害者福祉会館の施設見学、丸子地区社協では丸子地区の高齢者とボランティア希望者による交流会(月1回、合計10回)、大戸地区社協では「今の子育ての大切なポイント」「今どきの離乳食」「幼児と遊ぼう」の3回シリーズの講座(11月から1月)を実施した。</p>		
	実施時期 (開催日/回数等)	15日/15回	参加 人数等	520人

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>地域福祉の啓発、新たなボランティアの養成、高齢者の外出支援や子育て支援などを、区民が主体となって企画・立案・運営し、区が事業の支援をする協働の取組ができた。</p> <p>いずれの企画も、協議会のメンバーのために実施するという考えではなく、地域住民を少しでも地域の福祉活動にまきこみ、福祉の輪を広げたいという考えであることが評価できる。</p>
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>本事業は2年間実施したが、地区社協としての活動と類似する部分があることなどから、すべての地区社協で実施するには課題があることがわかった。</p> <p>平成20年度は、区内のすべてのボランティア団体を対象として公募することで、本事業のさらなる充実を目指す。</p>

区民会議からの主な意見


<p>・より魅力ある事業となるよう、実施方法含め検討をして欲しい。</p>

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-10	多胎児育児支援事業	継続	平成18年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課 児童・家庭支援担当 ふたごちゃんフェスタ実行委員会		対象者	中原区在住の多胎児を持つ親 及び多胎児育児に関心のある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	多胎児育児は通常の育児にはない多くの負担を抱えながらの育児となる。また、外出も少なく、孤独・閉塞的な育児になりやすい。育児に前向きに取り組んでいけるよう 多胎児育児をしている親同士での育児の工夫などの情報交換 専門職による子育てに関するアドバイス ボランティアの見守りの中でゆっくりと会話ができる場作りを目的に 多胎児育児支援ボランティアの拡充・養成への支援 区内3会場での交流会の開催 ふたごちゃんフェスタ(休日開催)による家族単位の交流会を実施する。					
予算額	250,000(円)	決算額	237,913(円)	不用額	12,087(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(ふたごちゃんフェスタ)</p>		<p>ボランティアグループ「ピーナッツ」の活動支援及び ・ の企画・運営。(通年 参加者実数24名 延べ149名) 区内3会場での交流会の実施 国際交流センター 9月14日 12組(45人) 大戸こども文化センター 10月17日 7組(23人) 上平間第1町内会館 11月16日 4組(12人) ふたごちゃんフェスタ開催2月24日(日)曜日 実行委員会へ委託 多胎児家族43家族 延べ198人参加</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)

交流会では、多胎児の保護者のより身近な会場で開催したこともあり、今まで参加できなかった母子の参加が認められ、また、妊婦も含めた交流が行えた。

ふたごちゃんフェスタは今年度「ピーナッツ」へ初めて委託を行った。日曜開催としたことで父親の参加も得られ、母子のみの交流から家族同士へと交流が拡大した。また、地域住民がボランティアグループとして多胎児育児のフェスタを実施していることを知り多胎児の保護者たちからは中原区で子育てをされていてよかったという評価を得た。

委託事業であるフェスタのみではなく、交流会においても「ピーナッツ」のメンバーが企画から積極的に参加し、ボランティア間のつながりから新たに読み聞かせボランティアなどの参加を得て支援の輪が広がった。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	2年間ボランティアを中心に交流会・フェスタを実施し、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のOBボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。

区民会議からの主な意見

・支援が必要な事業だと思う。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-11	乳幼児ふれあいスペース事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	区民 ・保健福祉センター利用者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	当区は大型開発等により、乳幼児の人口が増加傾向にあり、転入出が多く、子育て情報や仲間作りに対しての需要が高い。健診対象者の95%以上が来所する乳幼児健診の機会を利用し仲間作りや健やかな親子関係づくりを促進することを目的に、子育てに理解のある市民ボランティアと協働し、平成18年度に改修した幼児室を活用しふれあい事業を実施する。3ヶ月健診では看護職が待合の時間を利用し個別に声をかけながら育児支援を行う。1歳半、3歳児健診では待合の時間に安全に楽しく親子で遊べるように専門職が関わる。また、3歳児健診は昨年から引き続き公立保育園の保育士が参加し、地域での育児情報を提供していく。				
予算額	588,000(円)	決算額	563,854(円)	不用額	24,146(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		平成19年6月から3ヶ月健診において子育てアドバイザーが待合時間に保護者からの細かな相談に応じるようにした。 平成19年6月から1歳半健診の待合時間に保育士が幼児室にて待機し、待合の時間に遊びながら待てるようにし、保護者に遊びの指導や交流を促した。 平成18年度から3歳児健診の待合時間に公立保育園の保育士が参加してきたが、本事業での臨時職員による保育士を増員し、安全確保を図り親子のふれあいを促した。		
	実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度通年	参加 人数等	区民親子約5,000組	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>孤立しがちな親子が健診の待合時間を利用してボランティアや専門職と関わることで細かな不安等を相談でき、個人にあった育児情報を提供し、地域の活動や仲間作りへと安定して育児に向き合えるようになっている。</p> <p>平成19年度に利用者へのアンケートを実施したが、待合の時間に専門職から親子遊びのヒントや発育発達を踏まえた基本的な生活習慣の助言が得られて大変参考になったという意見が多く得られた。また、子どもが飽きてしまいがちな健診の待合時間を安全に楽しく過ごすことで有効に使えた。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	乳幼児健診の待合時間を有効に利用し、親子のふれあいや専門職との相談を気軽に行える場となっている。ふれあい事業の中の親子遊びの工夫や、地域情報のより分かりやすい提供の方法などを見直し、今後も展開していく。

区民会議からの主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・必要なので継続して欲しい。
--

子育て④ 子育て 未来をつくる⑭
ここにこコーナー



保健福祉センターでは1歳児半と3歳児健診時に、区役所別館幼児室で「ここにこコーナー」を開設しています。

コーナーでは、育児ボランティア「ポケットの会」と公立保育園保育士が、ちょっとした育児相談に乗ってくれたり楽しい遊びを教えてください。「園庭開放の情報など身近な保育情報が聞けた」「待ち時間を安全に過ごすことができた」と利用者からも好評。健診の際にはぜひ活用してください。

区役所保健福祉サービス課 ☎744-3263、☎744-3343

これまで「区民活動支援コーナー」として利用されていた区役所五階フロアを、装いも新たに区民交流センターとして開設します。誰でも気軽に立ち寄ることが出来る交流の場・フリースペースをはじめ会議室、印刷室もあります。地域で活動する団



**区民の交流の場
 交流センター**

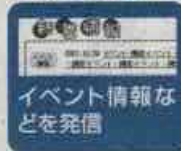
三月十日(予定) 区役所五階に区民交流センターと区民交流サイトが開設します。

区民交流センター **区民交流サイト** が **オープンします**

3月10日オープン!

**区民交流サイトって
 どんなホームページ?**

ポイント①



▼画面イメージ

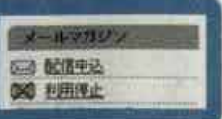


ポイント②



ポイント③

イベント情報などをメール配信



体は事前登録をすれば、会議室、印刷室が利用できます。地域活動についての講習会や勉強会を行う「まちづくりサロン」も毎月第二水曜に開催します。サロンは誰でも参加できます。

**地域の情報発信拠点
 交流サイト**

区民交流サイトはインターネットで町内会・自治会・市民活動団体が情報発信することが出来る新たなホームページ(右参照)です。このサイトでは、あらかじめ利用登録した団体がイベントや講座の案内などの情報を自由に発信することが出来ます。また、

「いつでも、どこでも、誰でも」をモットーに活動する「平間スポーツ・レクリエーションクラブ」。年齢や性別に関係なく、自分のペースでスポーツを楽しむことができるクラブです。主な活動場所は旧平間小学校付属幼稚園舎。現在は土・日曜に卓球とソフトテニスを中心に活動しています。大人に人気のヨガ教室も引き続き実施する予定です。会員として活動しているのは二十五人。会員以外でも参加することが出来ます。



大人に人気のヨガ教室

**みんなで気軽にスポ
 総合型地域スポーツクラブ
 「平間スポーツ・レクリエーションクラブ」**

個人利用者は、関心がある分野の情報を自動配信するメールマガジンサービスも受けられます。交流センターと交流サイトは利用団体の事前登録を一月四日から受け付けます。

卓球が大好きな五年生の原中「卓球に参加の学年のよ」と話して同クラブは市などが推進域スポーツクラブ世代が多種目軽に参加できる交流の場を積極的に活動して河村勇さんは汗をかける体を動かすキ活動に参加しと話してくれ活動の詳細問い合わせく問平間スポーツクラブ 140。教育課 ☎(200) 33950

**センター
 愛称を募**

区では区民区民交流サイトを募集します。んの交流の場持てる愛称をい。決定したのオープン時シなどで発表開週一月二十でに住所、氏愛称を記入しスで〒211-8570中興課 ☎(74) 33346。区


区役所地 3324、☎

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-12	母親支援事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	区民 ・保健福祉センター利用者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	子育ての中で、孤立・不安・苛立ち・ストレスを感じながら、軽減・解消する場や機会をもてずに、子どもとの関係がゆとりのないものになっている母親が増加している。早い段階で育児支援に結びつき母の孤立を防ぐことは、虐待予防のために重要である。乳幼児健診の受診率は3ヶ月時健診(95.7%)、1歳6ヶ月児健診(96.1%)、3歳児健診(95.0%)と高く、健診時に母親支援を行うことで、支援を必要とする対象者をより高い率でカバーできる。また、区民サービスの公平性が高まる。				
予算額	490,000(円)	決算額	457,889(円)	不用額	32,111(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		各乳幼児健診時に母親からの子育てに関する相談を丁寧に行う担当保健師等を配置し対応した。このことから、保健福祉センターが今後の相談者として認識され、電話相談、来所相談へと繋がるケースが増加した。また、区内での重症な児童虐待へと発展する事案は平成19年度には起こらなかった。		
	(窓口での相談の様子)		実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度通年	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
全体に育児困難感が高まっている状況であり、その変化は急速である。次世代を担う子どもたちが健やかな心と体に育つためにまずは母親支援を行うことが必要である。平成19年度に行った本事業を通し、子どもの発育発達の節目で行われる乳幼児健診の各場面で専門職が丁寧に母親の気持ちや育児の不安に沿い相談を進めることで、母親の緊張や不安が緩み、よりよい母子関係が結べた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	本事業は、平成19年度から協働推進事業として展開した乳幼児ふれあい事業へ統合していく。

区民会議からの主な意見

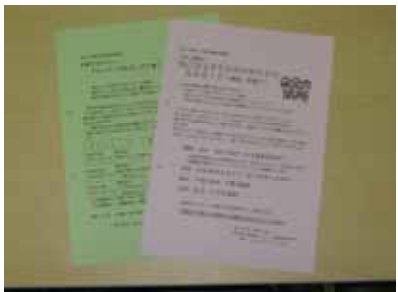
--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-13	軽度発達障がい児育児支援事業	新規	H19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所保健福祉サービス課	対象者	2～3歳代児の発達の見守りが必要と思われる児とその母		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	軽度発達障がい児について、育児困難感を持つ保護者が多いことから、啓発活動や保護者への支援を目的とする。 専門家を招き、月1回程度学習会開催。保護者や区民が理解を深め、保護者にとって育児上の共感できる仲間づくりの場となるよう運営する。				
予算額	329,200(円)	決算額	240,268(円)	不用額	88,932(円)
不用の理由	保健師賃金、保険代が当初予定より少なく済んだため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	あり方検討会を年2回実施。 (H19年2月:10名参加、H19年12月:10名参加) 区民向けの講演会を年1回実施。(H20年2月:計41名(保護者25名、児16名参加(保育付)) ・軽度発達障がい児対象のセミナーを3回コースで実施。(H20年2月:9組母子計18名参加)			
	 学習会開催案内チラシ	実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>発達障がいに関して地域会議を持つことは今までになかったが、初の試みとして取り組んだ。興味を持つ区民の方が多く来所。啓発活動対象の方も来たが、発達障がいまたはそれを疑われる児の母も多く来所した。</p> <p>発達障がいを有するために、育児で困っている母の数は相当数いると見受けられる。その意味でこの事業を展開する意義はあると考える。</p> <p>どのような支援をしていくとより有効な支援になるのか、継続して考察していくことは必要と思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	H19年度実施した内容をふまえ、同等またはそれ以上の回数を展開する予定。

区民会議からの主な意見

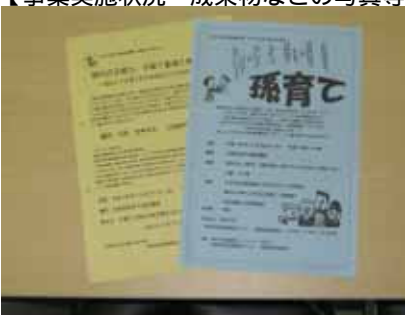
・保護者だけではなく関係者も参加できるなど、実施方法を検討して欲しい。

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-14	三世代子育て支援推進事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	子育てに関心がある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	<p>少子化の中で祖父母世代も子育てへの関心が高くなっている。若い世代の子育てを見守る立場として、現代の子育て事情や、祖父母として親世代への関わりや孫の子育てをどう支援していくかについて学ぶ機会とする。</p> <p>子育て支援啓発の講演会「現代の子育ち、子育て事情と子育て支援」講師：汐見稔幸（白梅学園大学学長） 祖父母として孫の子育てに関わる人への講座を2回実施する。</p>					
予算額	168,000(円)	決算額	163,044(円)	不用額	4,956(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>講座開催案内チラシ</p>		<p>10月31日「現代の子育ち、子育て事情と子育て支援」の講演会には49名が参加した。内容も好評で感想に今後子育てに関する活動をしたいと答えた人が8名いた。その内の2名が保健福祉センター事業「すすく子育てボランティア養成講座」を受講し、子育てボランティア「ポケットの会」に入会し、活動に参加している。</p> <p>11月29日と3月14日の「じいーじとばあーばの孫育て」の講座には、妊婦とその父母、義父母、母子とその祖母、娘の里帰り待つ実母等、合計29名が参加した。小児科医師や助産師から、子どもの病気や育児への関り等の現実的な話を、座談で他の人の考えを聞き、心構えができたとの感想が多かった。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度内3回 (開催日は上記)	参加 人数等	合計78名		

2 事業評価

<p>評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）</p> <p>子育て支援への啓発講演会の参加者の中から2名が、乳幼児健診ボランティアとして活動している。この講演会が一步を踏み出すきっかけとなった。またすでに子育て支援に関わっている参加者も10名以上いた。その方達にとっても活動の意義を明確にし、元気を与え活性化に役立った。祖父母世代（40～70歳代）にとって活動に参加することが、地域の人との交流や生きがいに繋がり、健康にも役立っている。また、2回の講座については、予想よりも参加人数が少なかった。里帰り出産する人が多いことから、地方に住む祖父母の参加は困難だったと思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>祖父母世代（40～70歳代）への子育て支援推進の取り組みとしては、関連する「すすく子育てボランティア養成講座」や双子育児の支援事業「ピーナッツの会」（ボランティア）への参加を広く呼びかけ、強化することで実施していく。</p>

区民会議からの主な意見


<p>・団塊の世代にも育児参加を呼びかけるのは良いと思う。</p>

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-15	認知症予防「(仮称)脳はつらつ教室」モデル事業	新規	平成19年	高齢者支援課

1 事業概要

事業実施主体	高齢者支援課・地域保健福祉課		対象者	認知症になる危険性の高い 高齢者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	健康福祉局・介護予防事業		
目的及び内容	認知症予防訓練を実施し、活動を通して閉じこもりを防止し、仲間づくりや介護予防など高齢者の生活の質の向上を目指す。対象者とボランティアといった地域住民を含めた事業運営により、地域における介護予防活動の普及・拡大を目指す。週1回、認知訓練や介護予防学習会を中心としたプログラムを実施する。また、活動を支援するボランティアを育成するための学習会を併せて開催する。				
予算額	270,000 (円)	決算額	201,123 (円)	不用額	68,877 (円)
不用の理由	賃借代・ボランティア謝礼予算を計上していたが、会場の区役所会議室等を使用し、またボランティア参加が少なく予定よりも支出しなかったため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		継続参加者は体力測定の結果から歩行能力の改善が明確であった。認知能力では維持または向上がみられた。また、生活機能評価の結果から改善がみられ、外出頻度も上がった。生活の変化はアンケート結果から「運動をするようになった」「人に会う事が億劫ではなくなった」「生活・時間のけじめがついた」などの良好な変化があった。 ボランティア講座のプログラムでは、ボランティアの自主性を引き出すよう工夫して支援した。その結果、積極的な意見交換から自主的に改善策を考え実行することができた。次年度への継続の意見もあり、活動を地区で広げる上で必要なボランティア育成ができた。		
	脳はつらつ倶楽部の様子		実施時期 (開催日/回数等)	ボランティア講座 6~7月 計4回 脳はつらつ倶楽部 9~2月 計22回	参加 人数等 26名 脳はつらつ倶楽部 19名

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
参加者は認知症予防の教室に参加することによって認知能力・生活機能において維持・向上があった。また、良好な生活の変化がみられた。しかしながら、参加者自身の自主活動への意欲はみられず、対象者が虚弱高齢者であることから、今回のプログラムは生活の安心感や自信につながったが自主性までは困難であった。 ボランティア養成は当初から役割を明確にし、脳はつらつ倶楽部実施のなかで毎回カンファレンスを行い、中間、終了前にボランティアの話し合いの場を設けることにより、自主的な活動へつながることができた。また、参加者と交流することでボランティアはやりがいを感じながら活動することができた。 ほかに、参加者にとってもボランティアにとってもお互いがいることにより参加継続につながった。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	現在活動しているボランティアは継続の意思があり、支援を行う必要がある。また、新たにボランティア養成を行い、今後はボランティアの活動を地域へと広げるよう取り組んでいく方針である。

区民会議からの主な意見

・ボランティアの活動を地域に広げ、参加者を増やす必要があると思う。
